

# 2013特別見学ツアー報告書

[旧閑谷学校/備前市]

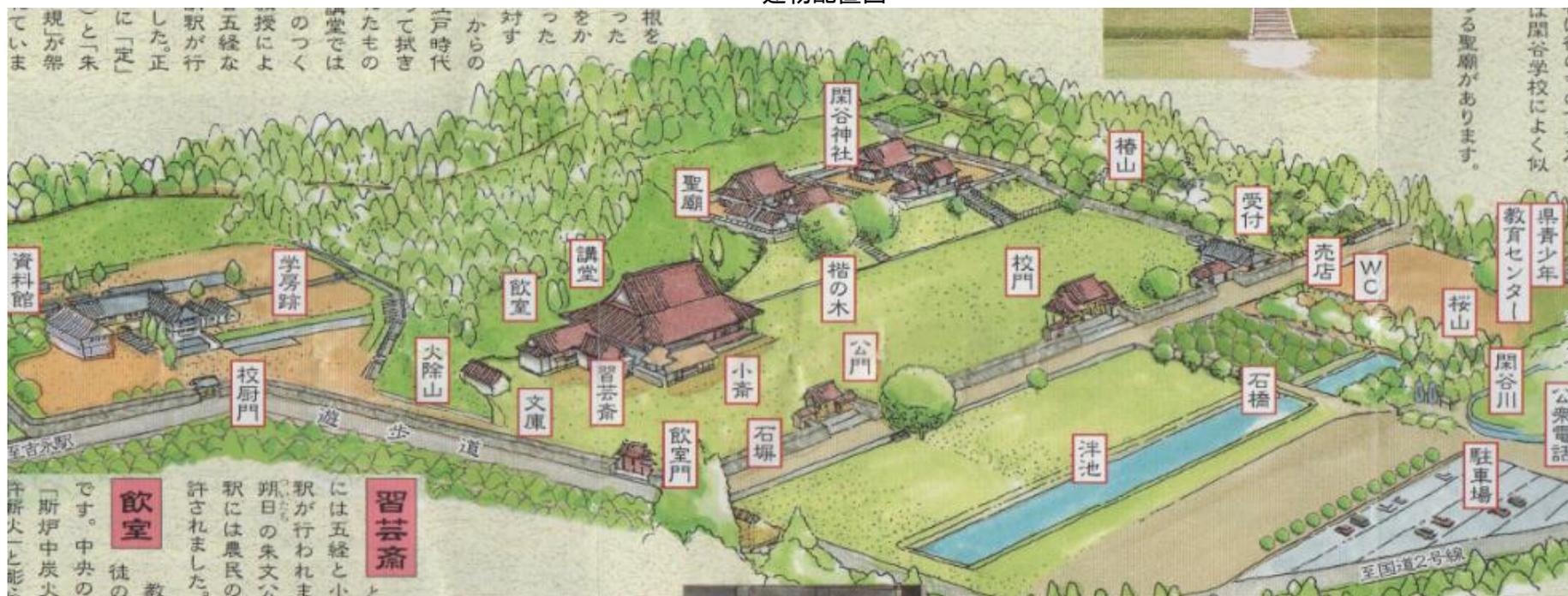
しずたに

ここが旧閑谷学校





建物配置図



根を  
つた  
をか  
つた  
対す  
からの  
六戸時代  
て拭き  
たもの  
堂では  
のつく  
授によ  
五経な  
釈が行  
した。正  
に「定」  
と「朱  
規が祭  
ていま

は後のものですか  
は関谷学校によく似  
る聖廟があります。

**飲室**  
徒の教  
です。中央の  
「斯伊中炭火  
許薪火」と形

**習芸斎**  
には五経と小  
釈が行われま  
朔日の朱文公  
釈には農民の  
許されました。



上記配置図矢印のところの公衆電話の屋根に注目！



アップで見る



閑谷に関係のある人物の紹介板



詳細は下記ホームページ参照







簡易版

関谷学校の歴史

- 1666年 (寛文 6) 岡山藩主池田光政が和気郡木谷村延原を視察した。
- 1668年 (寛文 8) 池田光政が領内123か所に郡中手習所を設置した。
- 1670年 (寛文10) 池田光政が木谷村延原に庶民教育のための学校を建てるよう津田永忠に命じ、延原を関谷と改称した。
- 1672年 (寛文12) 学房・飲室が建てられた。
- 1673年 (延宝 元) 講堂が完成し、池田光政が視察した。木谷村279石余を関谷学田 (関谷学問所領) とした。
- 1674年 (延宝 2) 聖堂 (聖廟) が完成した。
- 1675年 (延宝 3) 郡中手習所が廃止され、関谷学校に統合された。
- 1680年 (延宝 8) 津田永忠が関谷学校の永続をはかるため関谷村の田畑山林を買い上げ、関谷学校を地主とすることを提案し、許可された。
- 1684年 (貞享 元) 新聖堂が完成した。
- 1686年 (貞享 3) 初めて積業が行われた。芳烈祠が完成した。
- 1701年 (元禄14) 新講堂および小斎・習芸斎・飲室が完成した。石堀が築かれた。孔子像ができた。
- 1702年 (元禄15) 御納所・椿山が造られ、光政の髪・爪等が納められた。

教学の歴史は、明治以降、関谷精舎、関谷覺、私立関谷中学校を経て、県立関谷中学校、県立関谷高等学校、県立和気高等学校関谷校舎とつづき、現在は県立和気関谷高等学校及び県青少年教育センター関谷学校に受け継がれている。

簡易版

特別史跡

旧関谷学校  
附 椿山、石門、  
津田永忠宅跡及び黄葉亭

国 宝

旧関谷学校講堂 1棟  
附 壁書 1枚  
丸瓦 1枚

重要文化財

旧関谷学校 5棟  
講堂 (附 壁書・丸瓦)、  
小斎、習芸斎及び飲室、文庫、  
公門 (附 左右練塀)  
旧関谷学校聖廟 11棟  
大成殿 (附 聖龕)、東階、西階、  
中庭、外門、練塀、文庫、厨屋、  
繫柱石、石階、  
校門 (鶴鳴門) (附 左右練塀・石橋)  
関谷神社 (旧関谷学校芳烈祠) 8棟  
本殿 (芳烈祠)、幣殿 (階)、  
拝殿 (中庭)、中門 (外門)  
神庫 (庫)、石階、練塀、繫柱石  
旧関谷学校石堀 (附 飲室門)

手前は泮池(はんち)/重要文化財/石橋も重要文化財



前方に見えるのは講堂(国宝)の鍔葺屋根



アップで見る



これは「校門」の屋根/左奥に見えるのは「公門」の屋根/ともに重要文化財



校門/鶴鳴門ともよばれ、両脇に花頭窓のある付属屋を付けるなど中国の建築様式を模している/重要文化財



前方は公門/その背後に講堂が見える



アップで見る



飲室門/重要文化財/通用門の役目をもっている



ここを行くと資料館がある



振り返って見る/手前の門は「公門」、その後方が「校門」



さて、この受付の門から校内に入る



前方に見えるのは閑谷神社/重要文化財





# 旧閑谷学校

閑谷学校は、岡山藩主池田光政により創設された庶民教育（郷学）の一大殿堂で、その規模・建物はすぐれ江戸時代教育施設の典型である。

文化財保護法による指定物は

特別史跡

旧閑谷学校

附 橋山石門 池田忠忠墓所 池田忠雄墓

国宝

旧閑谷学校講堂

重要文化財

閑谷神社 六棟

旧閑谷学校聖廟 十一棟

旧閑谷学校講堂 五棟

旧閑谷学校

正面が講堂/左手は校門



講堂/国宝



左手は小斎(しょうさい)/重要文化財



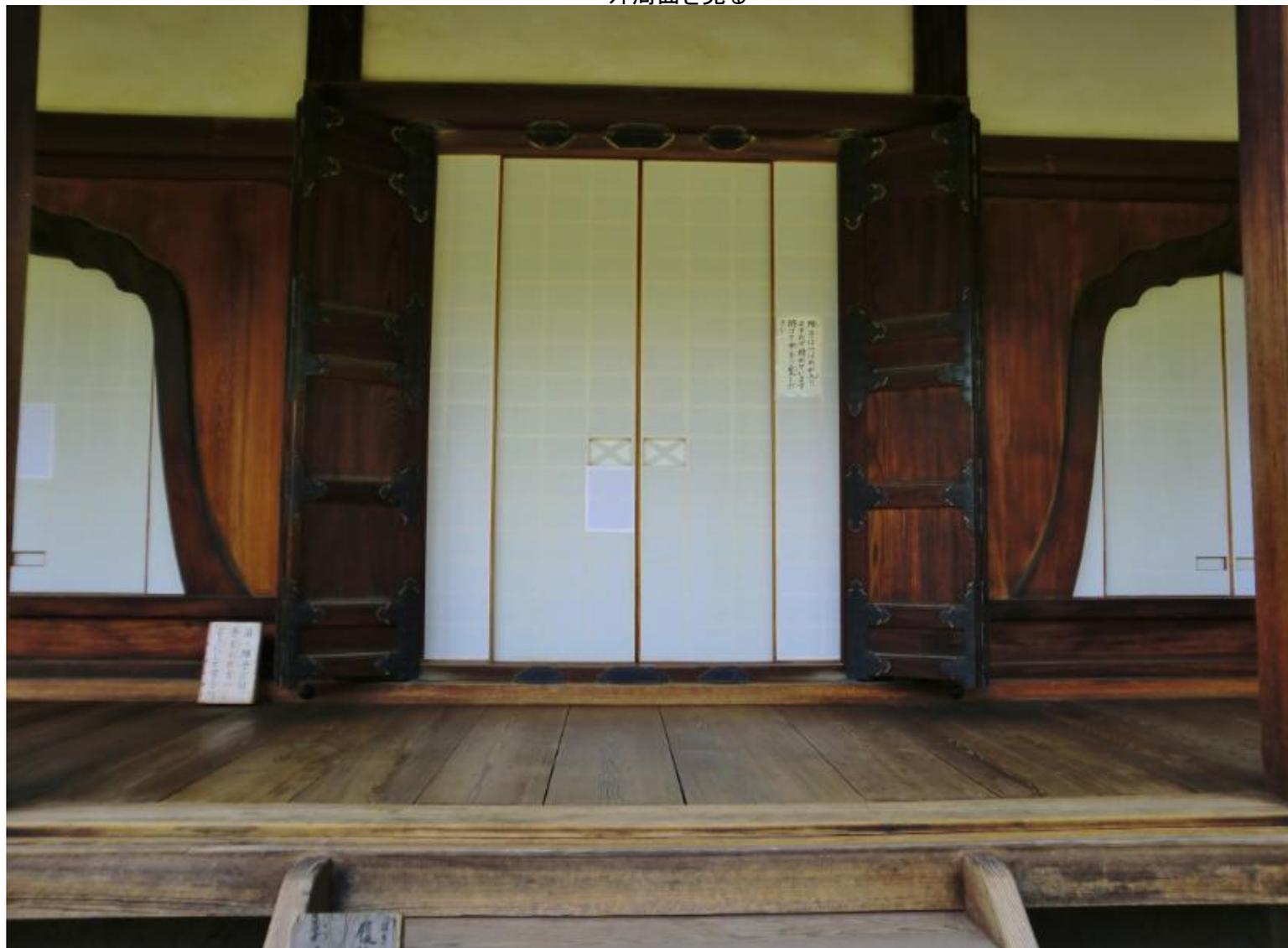








外周面を見る











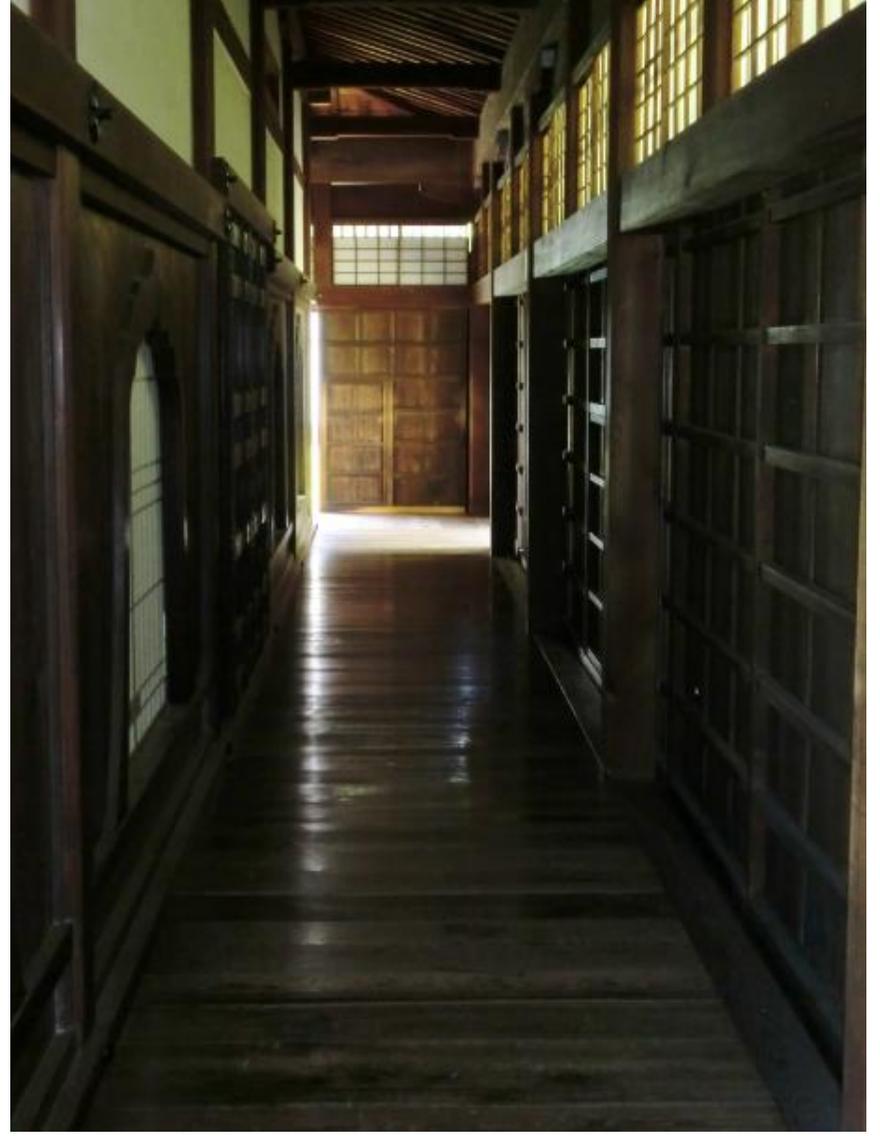
床下を見る











習芸齋・飲室方向へ進む



習芸齋・飲室(奥)



天井を見る



飲室



振り返って講堂方向を見る



この中が講堂



講堂内部





小斎/重要文化財







重要文化財

小斎

延宝五年（一六七七）に建造されたもので、藩主臨幸の際の御成の間である。

質素な材を用いた数寄屋造りで一の間、二の間の二室からなり、納戸・浴室・雪隠が付属している。

この建物だけがこけら葺きで現存する建造物の中では、最も古い姿を残している。



小齋屋根



小齋内部



右手は小斎/左手が公門(重要文化財)



右手は公門/左手が小斎(重要文化財)



公門/重要文化財/本柱の後ろに控柱二本を建てて切妻屋根をのせる薬医門様式





重要文化財

公こう門もん

藩主臨学の際に使用した門で御成門ともいう。

本柱の後ろに控柱二本を建てて切妻屋根をのせる薬医門様式の建物で、石塀が築かれた元禄十四年（一七〇二）の時点で設置された。

正面が習芸齋(しゅうげいさい)/その背後に講堂/左手は飲室(いんしつ)



正面が習芸齋(重要文化財)/その後方は飲室(重要文化財)





重要文化財

しゅうげいさい  
習芸齋

ついでに

毎月朔日には朱文公字規の  
講話がなされ、近隣の百姓の  
聴講も許された。

三・八の日には五経などの  
講釈が行われた。

床に用いられている材は梅  
で、天井は張っておらず太い  
自然木が見える野天井である

左手前は飲室





重要文化財

飲室 いんしつ

生徒の休憩室で湯茶を喫  
することができた。

中央の炬のふちには「斯  
槽中炭火之外不許薪火」と  
彫り込まれており、火の使  
用に厳重な注意がはらわれ  
ていた。

土間の片側にある竹の竇  
の下には右じくりの流しが  
配されている。

飲室門/重要文化財





重要文化財

飲室門

日通いの生徒や、毎月朔日の朱文公学規講釈に出席する聴講者が出入りする通用門であった。

これは文庫/重要文化財





重要文化財

文庫

関谷字校の教科書・参考書  
をおさめた書庫で、中央の階  
段を上がった左右の床に八十  
点余が所蔵されていた。  
漆喰塗で囲めた上を五畳さ  
にした直屋根式で、前室には  
三重の土の戸を含む六層の戸  
が設けられている。

漆喰塗で固めた上を瓦葺きにした置屋根式



正面は校門



校門/重要文化財



さて、左手を見ると前方は聖廟



右手は閑谷神社/左手が聖廟



こちらが聖廟/重要文化財



外門





重要文化財

せい  
びよう  
聖廟

大成殿・聖廟・東階・西階  
中庭・文庫・四庫・祭牲石

外門・擁壁・石階・校門・石橋  
孔子の始祖孔子を祀っており、

孔子廟または西御堂ともいふ。

本殿にあたる大成殿は貞享元年

(一六八四)の完成で、内部の厨子

には元禄十四年(一七〇二) 鋳造

の孔子像が安置されている。

向こうは関谷神社の一画



左手から中庭、東階、そして右手が本殿に当たる大成殿



繫牲石(けいせいせき)



左手は中庭/右手は外門





左手は厨屋、文庫(奥)/右手は中庭、西階、大成殿(奥)



奥が大成殿/その手前が西階



厨屋の屋根瓦の下に水抜きの穴が並んでいる



さて、こちらは閑谷神社/重要文化財



中門(外門)から拝殿を見る



拝殿



奥へ幣殿、本殿と続く



正面が本殿



向こうに見えるのは聖廟の一面



左手が本殿/右手が拝殿/それらを繋ぐ幣殿



閑谷神社の繫牲石



隣の聖廟を見る



神庫



正面は神庫/向こうは聖廟



さて、受付の門へ戻る



井戸だろうか







参考ホームページ

<http://shizutani.jp/shiseki/index.html>

<http://www2a.biglobe.ne.jp/%257Emarusan/phsizut1.html>

<http://k-yagumo.sakura.ne.jp/web11/suzu.htm>

<http://www.geocities.jp/qbpb900/sizutani3.html>

